

学位被授与者氏名	友延 万祐子 (とものぶ まゆこ)
論文題目	「平安時代の穢意識－摂関期を中心に－」
論文審査結果の要旨	<p>メアリ・ダグラスの学説や山本幸司の研究を結論の土台にしているが、摂関期の諸記録に見える死穢・産穢・六畜の産穢等の具体的な諸事例の分析結果との間に懸隔があり、やや実証性に欠けるところがあった。諸事例の分析の積み上げによって説得力のある結論を導き出すことが望まれる。また今までの平安時代の穢に関する研究の蓄積に目を通してはいるが、それらを適切に踏まえて論じてはいるとは言えない。とりわけ失火の穢については、材料の蒐集や考察が甘く十分な説得力がない。</p> <p>ただし『小右記』を中心とする摂関期の諸資料を丹念に拾い集めて読解・整理し、平安時代の穢の様相と運用のあり方を明らかにした点は評価できる。また従来 of 穢に関する研究が制度面の解明に傾きがちであったことに対して、本論文では多種多様な穢に共通するところの根本的な意味や心意を追究した点に意義を認めることができる。</p> <p>平成 24 年 2 月 16 日に、北九州市立大学北方キャンパス本館館 B-305 教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(比較文化)として十分な内容であると判定した。</p>